

8)産官協力によるてん菜優良品種候補「北海55号」

北海道農業試験場 てん菜部

1.はじめに

昭和61年から原料てんさいの糖分取引が実施され、国際競争力の向上を目指して砂糖の低コスト生産が強く要望されるようになった。これに応じて品種も従来の根重を重視したものから、糖分を重視したものへ早急に更新する必要が生じた。本年度は糖分が高くかつ根重とのバランスのとれた「北海51号」「北海55号」が優良品種候補となり、また同時に、標準型～糖分型の輸入5系統が優良品種候補となった。

本年度候補となった上記7系統のうち「北海55号」はその育成経過がユニークで、最近の産官学共同研究の傾向に先駆けて、外国の民間育種機関の協力によって育成されたハイブリッドである。このようなケースは全国でも初めてであり、今後の各種作物の育種分野における新方向を開いたものといえよう。

2.育成経過

本系統は北海道農試において、高糖・多収・良品質品種の育成を目標に、ホクレン農業協同組合連合会の協力を得て、オランダのファンデルハーベ社(VDH)の保有する多収・耐抽苔性の雄性不稔系統を母とし、北海道農試育成の高糖・高品質の系統を父として交配育成したハイブリッド系統である。

3.特性の概要

姿は直立型で葉色は緑がやや濃く、葉の形は細く尖り、葉柄は細い。根の形は円錐形で側根を生ずる溝がやや深く根の分岐は少ない。根重は現在栽培されている「ハイラーベ」、「モノエース」より多収で、糖分、品質もすぐれ、現在の糖分取引に適している。褐斑病に対しても「ハイラーベ」より強い。抽苔耐性も充分で種子の生産性も高い。

4.普及態度

網走地域と十勝山麓の「ハイラーベ」に代えて栽培し、初年目からかなりの普及面積が見込まれている。耐湿性はあまり強くないので湿害のおそれの多い畑はさける。

表1 北海55号の育成地における特性概要

形質 /品種・ 系統名	葉色	1) クラウン の大小	根 形	根 重	糖 分	糖 量	2) 有害性 非糖分	3) 抽苔 耐性	褐斑病 抵抗性
北海55号	や濃緑	小	円錐	多	や高	多	低	強	や強
ハイラーベ	中	や小	円錐	や多	や低	や多	や低	強	弱
ダイヒル	や淡緑	小	円錐	多	中	や多	や低	強	弱
モノエース	中	や大	短円錐	中	高	や多	低	強	弱

注)1)クラウンは葉がついている部分で、小さいことが望ましい。

2)有害性非糖分(ナトリウム、カリウム、アミノ態窒素)は、低い方が製糖歩留が良い。

3)抽苔耐性は、強い方が原料畑で“とう立ち”し難い。

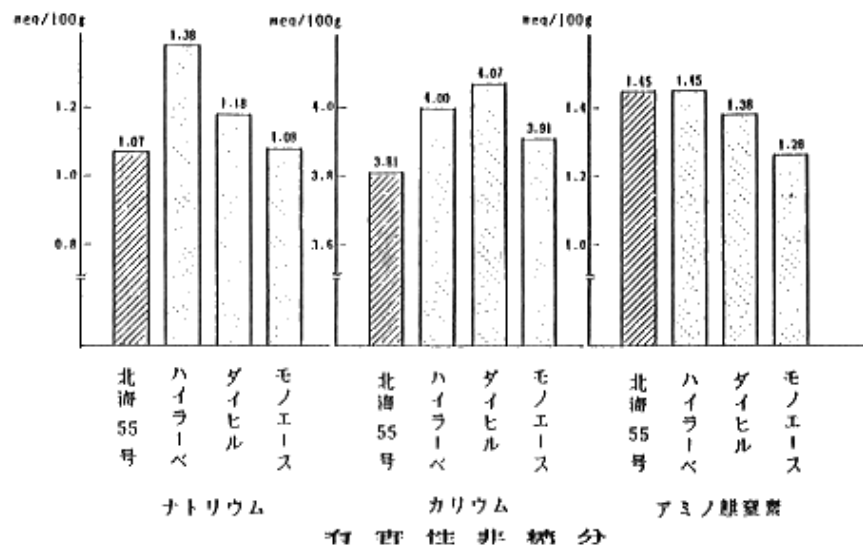
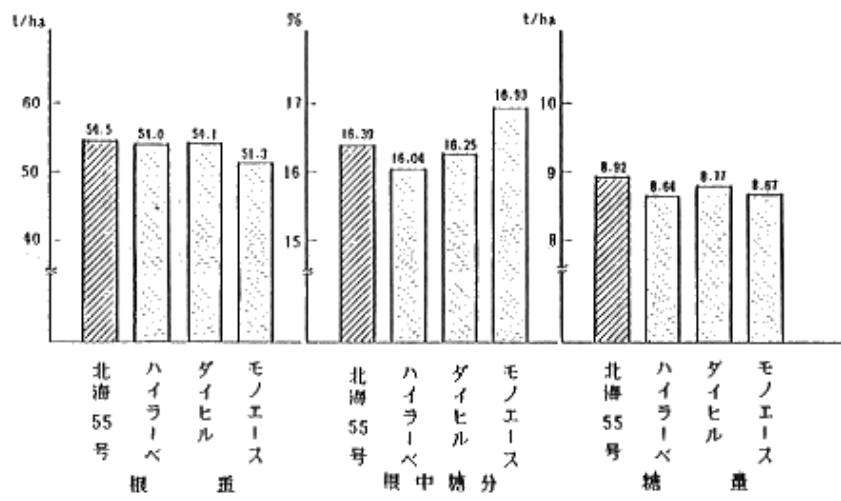


図1 育成地における成績